

令和5年度第1回高知市在宅医療・介護連携推進委員会
市民啓発WG議事録（要約版）

開催日時：令和6年3月18日（月） 18：30から20：30

開催場所：総合あんしんセンター3階 中会議室

出席者：【委員】浅川 英則，細川 忠，川田 麻衣子，田中 繁樹，藤井 貴章
大庭 憲史，石黒 純子，川澤 成子，藤崎 忠男（敬称略）
【事務局】基幹型地域包括支援センター 安部，半田
地域共生社会推進課 大黒，朝比奈

欠席者：【委員】森本 俊介，藤原 里菜（敬称略）

1 協議事項

(1) 思いの共有

○ 2グループに分かれて「もしバナゲーム」を実施。ゲームを活用して，市民への啓発を進めていくにあたって大切にしたいことを改めて考える機会とした。

【委員意見】

- ・【浅川委員】自身が大切にしていることが分かりやすかった。
- ・【石黒委員】「もしバナ」で自分の大切にしたいことに気づく。家族とできればいいなど感じた。
- ・【川澤委員】人によって大切にしたいことが異なる。
- ・【川澤委員】言語化することで，相手にどう伝わっているか分かる。
- ・【浅川委員】人としての尊厳が保たれるための体制が必要。
- ・【細川委員】痛み・苦痛がないことが大切だと感じた。
- ・【藤崎委員】自身としては家族に迷惑をかけたくないという思いと，家族としては（自身が看取った者としては），迷惑ではなかったという双方の思いがあった。
- ・【大庭委員】最期の「場所」の話は出なかった。
- ・【大庭委員】世代で選択するカードの内容が変わる。子育て中では，家族の今後の生活に関する事等を考える。
- ・【川澤委員】以前「もしバナ」をしたことがあるが，表面的に大切だと思っていたことが変わる（以前やったのは1年程前）。
- ・【藤崎委員】自分の置かれている立場によって難しい面もある。仕事での役割と家族としての思うこと，対象者に伝えることが異なる場合がある。民生委員としては住民の方には家族を頼らないかと伝えつつ，家族の立場からすると迷惑をかけたくないと思う。
- ・【藤崎委員】在宅療養には家族の「覚悟」もいる。専門職の支援も必要。

(2) 市民の準備性に応じた市民啓発方法

- 事前配布資料の「行動変容ステージ別の ACP（人生会議）普及手法整理表」を説明し、市民啓発方法について検討した。

【委員意見】

- ・【藤崎委員】本人の思いがしっかりしている時は、「家族に迷惑をかけたくない」思いがある。その思いの時には話し合うことの難しさがある。
- ・【川澤委員】本人に医療処置があった場合、家族としては在宅で看れないと思うことがある。在宅で受けられる医療処置について家族が理解する時間ががん患者の場合、短い。
→もっと早い時期に（病気になる前に）、癌のこと（病気）のことを知ることができていたらいいのにと感じる。今後の医療や生活を選択できるために正しく知っておくことが大切。
- ・【川田委員】医療機関での長期療養が選択肢になっている。家族への在宅療養等の説明が必要。
- ・【藤崎委員】人生会議やエンディングノートが重く感じる方がいる。もっと気軽に話すことのできる場があればよい。
- ・【石黒委員】「最後何を食べたい？」と聞くと話し始めやすい。食べたいものを聞きながらチューブを入れるのは嫌だということが確認できたりもする。また、趣味の話でも切り出しやすいのではないか。
- ・【浅川委員】一般高齢者が取り組む介護予防活動の場で、体操後の茶話会で「もしバナゲーム」を行ってみるのはどうか。「備えあれば」といったように、皆が知っている、やっているという雰囲気にしていくと良いのではないか。
- ・【細川委員】元気な時に笑いながら少しずつ話せると良い。
- ・【川澤委員】防災訓練は各地域で行っているため、防災訓練と一緒に「もしバナゲーム」をやってみるのも良いのではないか。
- ・【細川委員】通所サービス事業所では要支援など軽度の時に「もしバナゲーム」をやってみることはできるのではないか。
- ・【川田委員】有料老人ホームの入所者に声をかけてやってみることはできるかもしれない。
- ・【川澤委員】働く世代や家族に働きかけることができると良い。
- ・【田中委員】啓発の場所として市民やご家族が集まる認知症カフェなどもよいのではないか。
- ・【浅川委員】40代、50代の方は親が後期高齢者にさしかかり、今後の親の生活について考える時期かもしれないので、この世代の方に働きかけられると良いのではないか。
- ・【大庭委員】話すタイミングとしては、親から話があった時や身近な方が亡くなった時、病名がついた時ではないか。

課題

- # 1 在宅療養のイメージができない。
- # 2 病院と同じことできないと帰れないと思っている。
- # 3 「本人」と「家族」の思いのすり合わせが必要
 - 思いのすり合わせを担う人が必要
 - 思いを話すきっかけがあれば、「思いの違い」に気づくことができる
 - 薬局は本人・家族が来られる。数もあるので、啓発の場として活用できる。
 - 家族として本人の思いを聞くタイミング難しい

タイミング

- ①緩和医療の必要な時期に入る前
- ②医療機関にかかった時（または告知時）

(3)今後の予定

今回出た意見をまとめて、会議録として参加委員、欠席委員に送付予定。次回は今回出た意見をもとに、「誰が」「誰に」「何を」「どのようなタイミングで」「どのような方法で」あれば、市民に伝わるかについて検討するので、各委員には本日出た意見を参考に市民啓発の具体的な方法について考えておいていただきたい。

次回開催時期：会議録送付後、日程調整します。